

令和6年度 第2回和歌山市地域福祉計画推進協議会  
議事要旨

<日 時>令和6年11月14日(木) 13:30~15:05

<場 所>和歌山市あいあいセンター3階 会議室第3・4

1 開会

・福祉局長挨拶

・会長挨拶

2 議事

【事務局】説明

(1) 第5次和歌山市地域福祉計画の素案について

資料1 第5次和歌山市地域福祉計画わかやま・元気ふくし計画(素案)

資料2 第4次計画と第5次計画の骨子(新旧対象表)

【議長】

それではご意見、ご質問をお願いします。

この協議会では進捗管理をしていますが、この計画のプログラムの部分と柱については、市民向けに分かりやすくするためにピックアップして書いていると理解していいですか。市役所内の進捗状況管理に関しては、それぞれの柱に具体的な事業があり、進捗状況管理をさせていただいているということでしょうか。

【事務局】

その通りです。

【議長】

市民向けにピックアップをされているということでしたので、細かい事業内容に関しては、市役所内で別に細かい事業の資料があり、それに応じて進捗状況管理をおこなっていただいているとのことでした。

【委員】

54ページの「身近なところで相談を受ける体制の充実」のところで、児童に対する相談窓口が明記されていないように思います。民生委員は高齢者だけでなく児童委員として子どもも見ているので、これからの子どもたちのためにも、子育てに関する相談窓口を書いていたほうがよいと思います。

**【議長】**

55ページに個別的な相談先はありますが、総合的なところに書いていたほうが良いということでしたが、事務局いかかですか。

**【事務局】**

ご指摘の通り、ここに民生委員・児童委員の連携を書かせていただいています。高齢者に寄ってしまっている。児童のことについての内容を追記させていただきます。

**【議長】**

今回、アクションとして3つに再編しており、全体のニュアンスは問題ありません。ただ気になったのが、担い手創出のところで、福祉の専門職の養成を図りますという書き方をされていますが、年齢の若い方が仕事の価値について理解できていない状況なのでそこに対する取組や、大阪に近いために賃金の面で負けるのでしっかりと経済的支援をおこなう必要があります。若い人が参入できるような魅力的な職場が大事だと思いますので、しっかりと施策をどこかに書いてほしいと思います。福祉の仕事をする人と利用者（受け手）という印象を受けていますので、受け手も受け手だけでなく、支える側になれるということを、この計画の中でしっかりと書き込んでほしいと思います。また71ページにあるような「就労に困難を抱えた人への支援の推進」でも、就労に困難を抱えた人にも様々な状況の人がいますので、幅を持たせながらその人に合わせた個別的な多様な支援をイメージして書き込みをお願いしたいと思います。

**【委員】**

今の意見で気づいたのですが、50ページの「福祉の仕事への理解の推進」について、和歌山市で高校生に対して、福祉の仕事がどのようなものか発信していることは知っていますが、ただ統計で見ると中学生で進路を決めている人が多く、高校では遅いので、中学校を追加していただきたいと思います。

**【委員】**

今の中学生からお願いしますという意見について、教育委員会と協議しながら、文章の修正を検討します。

**【議長】**

72、73ページの「ユニバーサルデザインの推進」では、ハード面と情報、市民の理解の促進となっていますが、バリアフリーという場合、社会的には多様な人たちも含めて住みやすいまちとなっていることなので、大きな意味合いも含めて記載しておいてほしいと思います。基本的にはよく出来ている計画ですので、さらにブラッシュアップといった意味で言っています。

ほかにございますか。もしあるようでしたら後ほどお願いします。

それでは議事（2）「第5次和歌山市地域福祉計画事例集（案）」について、事務局をお願いします。

**【事務局】説明**

- (2) 第5次和歌山市地域福祉計画事例集(案)について  
資料3 地域福祉活動事例集(案)について

**【議長】**

事例集の選定方法と事例について説明がありました。どれも魅力的な活動でしたので、選定にはすごく悩みました。地域・ジャンル・活動趣旨のバランスを考えながら選定させていただきました。当日、参加していただいた委員に感想をお願いできればと思います。

**【委員】**

はじめてこういう経験しました。和歌山市内にこれほどボランティアの団体があり、これだけの活動があると思うと選定が難しかったです。参加できて良かったと思っています。

**【議長】**

事前審査で参加していただいた委員はいかがでしょうか。

**【委員】**

資料3の最後のページの説明を聞いていれば、各種団体が一緒になってという言葉が多かったのですが、この先の時代はこの進め方がベストだと考えています。

**【議長】**

ほかに意見はいかがでしょうか。それでは議事3「その他」について、今後のスケジュールをお願いします。

**【事務局】**

- (3) その他

素案について、本日の意見を反映して修正をおこないます。できた計画案で12月23日から1ヶ月間、パブリックコメントを実施します。パブリックコメントでいただいた意見を反映した案を最終案として第3回の協議会にてお示しさせていただきます。会議の日程は令和7年2月7日(金)13時30分からになり、場所はこちらになります。

**【議長】**

次回のご予定を開けていただくようお願いいたします。  
ここからは委員の皆様から一言ずついただきたいと思っています。

### 【委員】

非常に良かったと思います。こういった文章の性質上、目標を総花的に書いたものになってしまいます。その中で、公共交通機関の充実などがありますが、具体的に内容が伴っているのかが心配になります。バリアフリーについても、お買い物をする際に、コロナ以降、セルフレジが増えましたが、そうしたものは、障がいのある方によっては操作しにくいと思います。公共機関の件も含めて、文章はいいのですが、その内容が不一致な気がします。

### 【委員】

見やすく、分かりやすい内容だったと思います。中学生の時から福祉のことを知る必要があるという意見に賛成ですし、小学生からでもいいのはとも思っています。大人になってから、いろいろな仕事した後に福祉の仕事に来る人も多いですので、小さい頃から福祉の仕事について知ってもらえることはとても大切なことだと思います。事例集についてですが、最近、和歌山市にボランティア団体があるか聞かれることがありますので、そういった際に事例集など活用してできますし、SNSなどを通じて若い方をはじめ、いろいろな方に知ってもらえる機会を増やしていければいいと思います。

### 【委員】

退職された方でボランティア活動に参加されている人もいますが、広報がうまくできていないこともあり、なかなかボランティアのメンバーが増えなくなっています。市報などで、地域のボランティア活動の広報をしていただければと思っています。また地域の主婦たちの社会参加する場所も少ないと思いますが、なかなか口コミでは増えませんので、そちらも広報をお願いできればと思います。

### 【委員】

行事や活動を進めていく中で、老人会で特にネックになるのが、IT、パソコンです。簡単にインターネットで申請してくださいね、というのが、インターネットができない人がほとんどです。老人会の中で、使える人が核になると思いますが、インターネットが使えないことを考慮していただかないとできないことがあります。

### 【委員】

昔に比べ、ボランティアに対する考え方が変わってきていると思います。多くの事業所があり、施設などを巻き込んだ形で進めていかないと地方では難しいと感じています。また中学生はじめ若者はSNSなどで情報を収集しているので、紙媒体では難しいと思います。

### 【委員】

項目的には網羅されていると思います。使われている言葉で推進、充実が多かったので、表現を考えたほうが心に入ってくると思います。

54ページの「身近なところで相談を受ける体制の充実」の「生活困窮者自立支援」のところに、「ホー

ムページ等を活用」とありますが、生活困窮者が利用できるのかと疑問を持っています。社会福祉協議会の相談窓口の充実がありますが、数年前に相談件数が少なくなったので、窓口を統合した経緯があります。その中で充実とはどう考えているのですか。

**【委員】**

今の時代、誰に助けを求めたらいいのか、どうやって声を上げたいのかは、当事者にはタイミングが難しいです。先日、ふれあいまつりをおこなったところ、非常に多くの人に参加してもらいました。ふれあいまつりは子どもたちを中心に計画していたものになり、地域の3世代交流、顔の見える関係づくりをまずは小学生から始めようということでおこないました。このような顔の見える関係づくりというのはこの先必要であり、どんどん広げていきたいので、地域を一つにして頑張っていきたいと思っています。

**【委員】**

中学生はこの先自分はどうなりたいか考える時であるので、地域ということから見ると中学生をどう育てていくということが一番大事だと思います。

災害のところで、要支援者名簿について、何年更新なのかも分からず、支援する側の人が実際には支援される側であったりと、実態とそぐわないケースが多いので、名簿を使える名簿にしていくことが大事であり、定期的な更新も必要です。また、事例集ですが、団体の連絡先を載せてもらえれば、ボランティアをしたいときなどに連絡がとれるのではないのでしょうか。またスマートフォンは高く、持てない場合もあるかもしれないので、ネットだけでなくいろいろな方法で広報・啓発していく方法を考えたほうがいいと思います。

**【議長】**

ありがとうございます。委員の質問に対してお願いします。

**【事務局】**

相談窓口の充実について、今計画に盛り込んでいるのは、重層的支援体制整備事業として和歌山市のほうから市社協に委託している事業になり、この事業は様々な支援のニーズに対応していこうというものであり、各種相談窓口での対応も含まれています。市社協に相談があった場合は、いろいろな支援の機関につなぎ、一緒になって対応を考えるなど、窓口を増やす充実ではなく、内容の充実を図るということで充実という言葉を使用しています。

**【議長】**

委員の意見についてお願いします。

**【事務局】**

事例集の連絡先の記入については、各団体にそうした内容を確認し許可をもらえたら載せていきたいと思いをします。

**【議長】**

名簿の更新についてはいかがでしょうか。

**【高齢者・地域福祉課長】**

避難行動要支援者名簿については、年に3回、更新しています。委員がお話いただいたものは個別避難計画の作成ではないかと思いをします。計画については、現在、和歌山市では作成が進んでおりません。これを進めていくにあたって、作成後どうやって計画を更新するかは今後検討していく必要があると思いをしています。

**【議長】**

ほかに委員の皆様からありますか。

ないようでしたら、議事を終了いたします。

3 閉会

以上